〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学園
文京学院大学経営学部・外国語学部・保健医療技術学部／大学院／文京学院大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校／文京学院大学女子中学校
〒113-8667 文京区本駒込 6-18-3
☎03-3946-5301

文京学院

平成 28 年（2016 年）
4月30日
第 719 号
発行
学校法人文京学園
http://bgu.ac.jp

1843名が文京学院生に

3キャンパス入学式盛大に

桜の花びらが舞う中、文京学院の入学式・入園式・入校式が、各キャンパスで順次執り行われました。幼稚園から大学院、文京生涯カレッジを含む1843名が文京学院での新たな学びをスタートさせました。

4月1日 大学全学部、大学院全研究科

外国語学部、経営学部、人間学部、保健医療技術学部4学部と、大学院外国語学研究科、経営学研究科、人間学研究科、保健医療科学研究科4研究科の合同入学式が「東京ドームシティホール」で行われ、総勢1236名の新入生が、晴れやかな表情で出席しました。

森村幸夫ふじみ野キャンパスディレクターの司会で緞帳が上がり、在学生が海外で活動する様子が映し出され開式。アカペラサークル「Bth（ビス）」のリードで国歌・校歌斉唱。ピアノは在学生の篠田子さん。

工藤学長の式辞に続き、ロンドン芸術大学（UAL）副総長のChris Wainwright教授が祝辞を述べました。

工藤学長

佐久間会長

来賓・教員紹介に続き、「在学生歓迎の言葉」は、佐久間遼学生会本部会長。それに応えて、各研究科、学部から次の院生・学生が「My statement」を述べ、本学で学ぶ決意や夢を表明しました（敬称略）。

経営学研究科・針生芙月「生活の基本である食の領域に焦点をあて、農業を担う生産者の負担を減らし、労働に見合う対価を受けられる新しい仕組みを大学院で考えていきます」

外国語学研究科・池野智子「翻訳についてもっと学んで英語のスキルを磨き、英語で自分自身を明確に表現したいです。また、日本語や日本文化を学ぶ人たちとも交流したいです」

人間学研究科・鈴木理紗「自分自身を成長させるチャンスに感謝して、大学生活を送ります。高校生活で得たものを大学生活に活かして、充実した4年間にしたいと思います」

人間学部・齋藤舞「実践的な学習に魅力を感じて入学しました。いろんなことに挑戦する機会を無駄にせず、失敗を恐れないで積極的に取り組んでいきたいです」

保健医療技術学部・高橋すみれ「治療だけではなく、予防医療についても学びたいです。自分が怪我をした経験を生かして、理学療法士としてスポーツ医療に携わることが私の目標です」

文京GCI・寄主れいら（外国語学部）「将来、海外で人々や建築物を撮る写真家になりたいです。そのためには、英語が必要になるので、GCIで学び一生涯の助けとしたいと思います」

発表後、一同、工藤学長と固い握手を交わしました。

閉式後は、司会を曽根優学生自治会本部会長にバトンタッチ。本学のマスコットキャラクター「tomoちゃん」登場後、GCI生による「ロンドン芸術大学フィールドワーク」の成果報告、マッスルプロジェクトによるパフォーマンスと、吹奏楽部による演奏が披露されました。

祝 叙勲

島田燁子学園長が平成28年春の叙勲において、「旭日中綬章」を受章いたしました。

（詳細は次号で紹介します）

4月5日 中学校

高石和人副校長の司会により、仁愛ホールで厳かに開式。合唱部の澄み切った歌声と共に、国歌・校歌が斉唱されました。

南部和彦中高一貫部校長と島田燁子学園長の式辞に続き、後援会「ふじ会」の牧野健一会長と同窓会「鏡友会」の髙島宏子会長が祝辞を述べました。

来賓紹介後、在校生代表の佐藤友里江さんが歓迎の言葉、新入生代表の大槻遥花さんが誓いの言葉を述べました。水上茂副校長が、島田昌和理事長、佐藤芳孝統括校長をはじめとする教員を紹介。106名の新入生が舞台に注目しました。

閉式後は、合唱部の美しい歌声と、吹奏楽部による高らかな演奏で新入生を歓迎しました。

島田学園長

南部中高一貫部校長

新入生を歓迎する合唱部

大槻さん

佐藤さん

4月9日 文京幼稚園

総勢66名の新入園児が、元気よく園庭に現れると、保護者から大きな拍手が起きました。益田薫子園長の挨拶に続き、教員による楽しい人形劇が始まると、緊張気味の新入園児はみんな笑顔。年長児は園歌とお祝いの言葉、さらに手作りペンダントをプレゼントしました。島田燁子学園長もお祝いの言葉を贈りました。

益田園長の話を聞く新入園児

4月6日 高等学校

北野啓子教頭の司会により、仁愛ホールで開式。合唱部が伸びやかな歌声で国歌・校歌斉唱をリードしました。

清水直樹高等部校長と島田燁子学園長の式辞に続き、牧野健一ふじ会会長が祝辞を述べました。

来賓紹介後、在校生代表の呉莉那さんが歓迎の言葉、新入生代表の新関美結さんが誓いの言葉を述べました。雨宮正典副校長が、島田昌和理事長、佐藤芳孝統括校長をはじめとする教員を紹介。277名の新入生の注目が集まりました。

閉式後は、合唱部の澄んだ歌声と、吹奏楽部による迫力ある演奏が披露され、新入生一同、熱心に聴き入りました。

呉さん

新関さん

清水高等部校長

お祝いの演奏をする吹奏楽部

4月9日 ふじみ野幼稚園

98名の新入園児が園ホールに現れると、会場からは大きな拍手。小栗俊之園長・人間学部教授の挨拶後、教員と小栗園長による楽しい寸劇が始まると、新入園児は興味津々。来賓の島田昌和理事長、木村浩則人間学部長、椛島香代2園アドバイザー・同教授も笑顔で入園を祝いました。

入園式の様子
写真提供：スタジオ・トナミ

4月5日 文京生涯カレッジ

大橋早苗職員による司会で開式。森岡俊也生涯学習センター長・本郷キャンパスディレクターと、島田燁子学園長・同名誉所長の挨拶に続き、保健医療技術学部の飯島史朗教授が「コレステロール」について講話。一同、熱心に聴き入りました。第15期生60名の代表として、増田裕子さんと武蔵章子さんが入校の言葉を述べました。

文京生涯カレッジ第15期生

Green Spirits

人事を盡して天命を待つ

高等部校長 **清水直樹**

4月より高等部校長に就任しました清水直樹です。今後は、佐藤統括校長、中高一貫部の南部和彦校長とともに、歴代の校長がこれまでに築き上げてこられた教育理念をしっかりと受け継ぎ、高等学校での教育活動に取り組んでまいります。

佐藤統括校長、南部中高一貫部校長のもとでのこの7年間で本校は、グローバル化が急速に進む今後の社会を見据えた教育改革に挑戦し、その一つ一つを着実に実行してきました。平成24年に、都内女子校としては初めての「スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）」の指定を受けることができ、平成27年には、さらに「スーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）・アソシエイト」の指定を受けることができました。平成22年から開始された「国際塾」では、英語運用能力を高める講座が年間を通して展開され、英語力を高めるのはもちろんのこと、海外大学へ進学する生徒も少しずつですが増えてきました。また、部活動の教育効果をさらに高めるため、「スポ学」という文武両道の理念を各顧問、部員が共有するなどの体制を整えてきました。

こういったさまざまな教育改革をベースとして、昨年から、中学高校ともに「グローバルスタディーズ／国際教養」「アドバンストサイエンス／理数キャリア」「スポーツサイエンス／スポーツ科学」の新しい3つのコースが始動しました。この3つの新たな学びのステージをさらに発展させていくことはもちろんですが、今後も急速に変化していく現代社会の中で、どんな力が必要とされているのかを見極め、新たな改革を推し進めていくことも、私に課せられた使命であると思っております。

本校は本年度で創立92年目となります。創立者島田依史子先生が掲げた「自立と共生」の建学の精神と「誠実・勤勉・仁愛」の校訓を、日々の教育活動に具現化していきながら、次世代にしっかりと継承してまいります。百周年を迎える時に、さらに発展した文京学院の姿を見ていただけるように、私の座右の銘でもある「人事を盡して天命を待つ」に倣い、誠心誠意、人事を盡して職務に取り組んでまいります。

特集1 高校「高校進路状況」

平成 27年度高等学校卒業の進路状況が発表されました。合格大学の一例を紹介します。佐藤泰正進路支援部長・英語科教諭は、昨年度の特徴について次のように話しています。

佐藤（泰）部長

国公立大学：7名

北海道教育大学（教育）筑波大学（芸術学群）九州大学（芸術工）千葉大学（園芸）防衛大学校（人文・社会科学専攻）航空保安大学校（航空情報）名桜大学（人間健康）

ここ数年、本校の高等学校の生徒全体の実力は着実に向上しています。

特に、上位層が厚くなってきたことが今回の進路結果にも顕著に現れていると言えるでしょう。国立大学に挑戦して合格を勝ち取る生徒の数は年々伸びています。中でも、昨年に引き続いて、本当に自分の学びたいことを選択した結果として、首都圏という枠を飛び超えて、地方有力大学へ進学をした生徒が目を引きます。

最難関私立大学：12名

学習院大学（文、法、経済）明治大学（文、国際日本、農、青山学院大学（教育人間科、経営、文）立教大学（文、コミュニティ福祉、現代心理）中央大学（文、商、総合政策、法、理工）法政大学（文、法、スポーツ健康、社会、経済、現代福祉、情報科、人間環境、理工）東京理科大学（理、理工）立命館大学（情報理工）

ここでも、本校で実践している理数教育や国際理解教育の影響が大きく出ています。SSH（スーパーサイエンスハイスクール）効果から、医療系に偏っていた志望分野を脱却し、上位校から中堅校まで、理系分野の多岐にわたる学部学科に進む生徒が増えました。

例えば、前述の他に理学系では、東京理科大学（理）中央大学（理）東邦大学（理）東京薬科大学（生命科学）東京電機大学（理工）など。工学系では、九州大学（芸術工）東京理科大学（理工）法政大学（情報科学）立命館大学（情報理工）日本大学（理）東京電機大学（工）工科大学（先進工）東京工科大学（コンピュータサイエンス）など。農学系では、明治大学（農）日本獣医生命科学大学（応用生命科学、獣医）東京農業大学（農、応用生物、地域環境）麻布大学（獣医）日本大学（生物資源科学）玉川大学（農）など。医・歯・薬・医療系では、日本赤十字看護大学（看護）順天堂大学（医療看護）杏林大学（保健）東邦大学（看護、薬）日本大学（医）帝京大学（薬、医療技術）帝京平成大学（健康メディカル）東京医科大学（医）など。

また、理数系の生徒が、学問としてのスポーツを志す例もあります。こういった学部の広まりは、「グローバルスタディーズ」「アドバンストサイエンス」「スポーツサイエンス」のコース制指導の賜物と言えるでしょう。

難関大学（GMARCH＋東京理科大学＋立命館大学）：52名

学習院大学（文）慶應義塾大学（文）上智大学（外国語、総合グローバル）

早稲田大学（教育、文化構想、人間科学、スポーツ科、先進理工）慶應義塾大学（文）上智大学（外国語、総合グローバル）

女子大学：62名

学力全体の底上げにより、難関・有名女子大学の合格者も増えましたが、中堅層の生徒が健闘し、合格を果たしています。

津田塾大学（学芸）東京女子大学（現代教養）日本女子大学（人間社会、家政、文）学習院女子大学（国際文化交流）白百合女子大学（文、人間総合）聖心女子大学（文）フェリス女学院大学（国際交流、文）清泉女子大学（文）大妻女子大学（文、社会情報、人間関係、家政、比較文化）東京純心女子大学（文）昭和女子大学（人間文化、グローバルビジネス、生活科学、人間社会）東京家政大学（家政、人文）など。

有名私立大学（成成明獨武國＋日東駒専）：98名

全国的な知名度と、伝統ある大学の合格者数は安定しています。

特に、文部科学省よりSGH（スーパーグローバルハイスクール）アソシエイトに指定されている本校生徒は、SGU（スーパーグローバルユニバーシティ）に採択された東洋大学や、英語教育・海外との連携を強める大学へ進む生徒たちが増えています。例えば、早稲田大学（文化構想）上智大学（総合グローバル）学習院大学（文、神田外語大学（外国語）など。

成蹊大学（文、法、経済）成城大学（文芸、法）明治学院大学（法、経済）國學院大學（文、人間開発、経済）武蔵大学（人文、社会）獨協大学（外国語、法、経済、国際教養）日本大学（スポーツ科、生物資源科、経済、商、生産工学、文理）東洋大学（国際地域、社会、食環境科、生命科、総合情報、文、法、ライフデザイン、理工）駒澤大学（グローバル・メディア・スタディーズ、経営、文、法）専修大学（経営、人間科、文）など。

海外の大学へ進学する生徒数は年によって波があるのですが、27年度は9名が海外での学びをスタートさせました。

その一方で、スポーツに関連する様々な分野や、芸術を志す者も増えてきています。例えばスポーツ系は、早稲田大学（スポーツ科）法政大学（スポーツ健康）日本大学（スポーツ科）順天堂大学（スポーツ健康科）日本体育大学（スポーツ健康科）国士舘大学（体育）流通経済大学（スポーツ健康科）など。芸術系は、筑波大学（芸術専門学群）武蔵野美術大学（造形）多摩美術大学（美術）女子美術大学（芸術）玉川大学（芸術）東京造形大学（造形）東京工科大学（デザイン）尚美学園大学（芸術）など。

また、併設大学には、経営学部19名、人間学部33名、保健医療技術学部18名が進学しました。

自分で考えた進路選択という点では、併設大学進学者も同様です。1年生の頃からその都度説明会を行ってきたからこそ、入学後にも円滑に学校生活を送り、活躍してくれると信じております。

文京学院の教育の下で、各自の個性を活かした多様な進路実現に向けて、今年度も教員一丸となって頑張ってまいります。

佐藤芳孝統括校長「卒業生に思うこと」

佐藤統括校長

生徒たちは良く頑張ったと思います。自分の進む方向をきっちり見定め受験大学を選択していますので、進学先は必ずしも学名や偏差値のみで決めていません。自分の学びたいことを優先するという姿勢を持っているからだと思います。

本校は将来の職業選択を含めたキャリア教育を重視していますので、そのことが反映しているのだと思います。最近の傾向ですが、留学や大学院を考えている生徒が増えています。キャリア実現のために専門性を強めるべく大学へ進む生徒たちが増えています。

特集2 大学「外国語学部 教員採用試験合格者 座談会」

外国語学部で学び、夢と希望を持って教員を目指していた次の学生たちが、努力を重ねて在学中に教員採用試験に合格し、教員としてのスタートを切りました。また、「教員になりたい！」という強い想いでチャレンジし続けた卒業生たちからも吉報が届きました（卒業年度の平成は省略）

それら代表者が、自らの体験を後輩に伝えるべく、座談会に臨みました（敬称略）。司会進行は小泉博明本郷キャンパス教職課程センター長・外国語学部教授、アドバイザーは大久保幸夫同副センター長・外国語学部特任教授です。

【教員採用試験合格者】
★東京都合格＝菅野瑞翔（27年度卒業）伊勢涼（26年度卒業）西畑遥（26年度卒業）首藤樹里子（24年度卒業）
★埼玉県合格＝内田翼（27年度卒業）
★千葉県合格＝磯部珠美（25年度卒業）
★神奈川県合格＝1名（25年度卒業）
★郁文館夢学園＝照山洋子（27年度卒業）
★蒲田女子高等学校＝加藤真拡（27年度卒業）
★私学他＝1名（27年度卒業）

面接が鍵の教員採用試験

照山　教員採用試験の勉強開始は3年生の2月で大変遅かったのですが、特人任授の高木克先生（取材時）の講座を受けて、勉強しながら知識を増やしました。面接は大久保先生のご指導を受けて、様々な質問に答えられるように準備しました。想定外の「座右の銘」を聞かれた時「猿も木から落ちる」しか答えられなかったのですが（笑）、今では「何事にも挑戦！」と言います（笑）。

加藤　私も3年生の2月から、高木先生の講座を受講しながら、東京都の過去問題や参考書で勉強しました。参考書は試験を受けるまでに4周は繰り返し読み、毎日3～4時間勉強しました。4月からは大久保先生から論文や面接の指導を受けました。実際には、「イスラム国（IS）の人をどう説得するか」という想定外の質問に驚きました。

伊勢　公立・私学どちらの試験も、専門科目の英語レベルは非常に高いと思いました。2年生から単語や文法を勉強しましたが、時間が間に合いませんでした。教職に関しては高木先生の講座を受講し、テキストを繰り返し勉強して自信をつけました。面接は「教室に生徒が一人いなかったらどうするか」という場面指導等で、答えても質問されました。「教員と協力して問題を解決する」という答えを出せなかったという勉強不足があったからです。

内田　私が受けたのは質問校だったため、一般教養と教職の専門教養で難しいと感じたのは、自分が扱ってこなかった化学でした。また、「オリンピックで行われた競技」についての問いや、「学年史」については難しかったです。昨年の英語による面接では、教育活動に繋げた答えを出せなかったのですが、今年は「危険ドラッグについての指導」を問われた際、「地域住民や警察、病院など関係者を呼んで講演会を開く」と地域を意識して答えました。

熱意で臨んだ教育実習

照山　母校で実習を行いました。指導案は先に提出したので問題なかったのですが、指導してくださった先生が毎日模擬授業を見てくださり、それに対する授業準備を毎晩2時までしたため大変でした。生徒たちとの関わりは、あまり友だちのような近い距離感で話すのはやめようと常に心がけていました。

加藤　実習が始まって4日目からは一人で授業を担当したことで、指導案の修正をたくさんしました。授業の準備等を含めて毎日の睡眠時間が2時間ほどでした。それを3週間続けましたから大変厳しかったですが、それを乗り越えたことが力になりました。生徒からはなめられた部分もありましたが（笑）、せっかく話しかけてくれるのですから真面目に正面から向き合いました。授業も余裕が全くなかったのですが、最終的に良い信頼関係を結べました。清掃活動は、私も生徒と一緒に率先して行いましたが、ゴミ捨てで揉めた時に、私も含めてジャンケンをしました（笑）。

伊勢　先方は早め帰宅されていましたので、私も19時には家に着いていました。実習中に生徒から、先生として言葉遣いや振る舞いが見られるのはプレッシャーでしたが、授業では基本的なことに力を入れて、教員としてきちんと接しました。生徒との関係は、年齢の近さから加藤さんと同じくなめられることもありましたが（笑）、一線を越えてきた時は注意しました。

内田　朝は7時半頃に出勤して軽く清掃し、生徒に朝の声掛けをするために門に立つこともありました。先生方がいらっしゃる限り、職員室で教材研究と授業案作成をしました。先生からも教室を使用しての授業練習を認められましたので毎晩練習しました。私は中一の教員採用もなかったと思います。面接がうまくいかずに落ち込んで、先生方に愚痴を聞いていただいた際、次に繋がるアドバイスをくださって本当に力になりました。教職課程を取るならば、必ず行くべき所であると思います（笑）。

加藤　公立から私立ヘシフトした際、履歴書を書く必要があり、何度も添削していただきました。自己PRの書き方など本当に親身になって教えてくださいました。今年の1月にオンターからお話をいただいて今があるため、将来、絶対先生方のように親身に生徒と向き合える教員になりたいと考えています。

自慢の学校インターンシップ

照山　2年生の時に板橋区立中台中学校、4年生では郁文館夢学園でお世話になりました。教育実習ではないので授業は担当できませんが、教育実習では経験や、机間指導を通して生徒との関わりについて勉強させていただきました。この経験を基に、私学での面接の際、自己PRができたと思っています。学校インターンシップという本学ならではのシステムは珍しいため、先生方も興味をもってくださり、ちょっと自慢でした（笑）。

伊勢　勉強量、時間をかける量もさることながら、本当に根気がいる仕事です。教職課程を取るにあたり、教員になりたい明確な理由をもては、どんなに勉強が辛くてもきっと乗り越えられるのです。それが教員になるための一番の近道ではあると思います。経営学部から外国語学部へ転部して、学生たちの英語力の高さを痛切に感じました。でも、地道な努力を続ければ、きっと夢は叶います。

内田　私は、2年生のうちから3年生に一緒に高木先生の講義を受けさせていただいたので、3年生の時には周囲よりも理解が進み、大きな助けとなりました。何事も早めの準備が必要だたので、使用率歴代ナンバー1だと思います（笑）。ここにいれば必ず教育関係の情報がスピーディに入ってきましたし、先生方と教育について話し合うことや知識が身につきますから、毎日昼食持参で通いました。大久保先生の授業が始まるギリギリまで、先生を拘束しました（笑）。高木先生、棚橋信雄先生にも大変お世話になりました。リアルタイムで先生方の考えや意見を吸収したことが今、現場でとても役立っています。

伊勢さん　照山さん　小泉センター長

内田さん　加藤さん　大久保副センター長

手厚い指導の教職課程センター

伊勢　私はほぼ毎日、教職課程センターに行きました。関係者に出勤の挨拶をしてから、教職課程センターに行きました。

内田　カウンターで仕切られていないことが良いと思います。すぐに先生の傍で行って話すことができて、いつも親身に相談に乗ってくれるのです。それが教員になるための一番の近道であると思っています。学校インターンシップという本学ならではのシステムは珍しいため、先生方も興味をもってくださり、ちょっと自慢でした（笑）。

加藤　公立から私立ヘシフトした際、履歴書を書く必要があり、何度も添削していただきました。自己PRの書き方など本当に親身になって教えてくださいました。今年の1月にオンターからお話をいただいて今があるため、将来、絶対先生方のように親身に生徒と向き合える教員になりたいと考えています。

自慢の学校インターンシップ

照山　2年生の時に板橋区立中台中学校、4年生では郁文館夢学園でお世話になりました。教育実習ではないので授業は担当できませんが、教育実習では経験や、机間指導を通して生徒との関わりについて勉強させていただきました。この経験を基に、私学での面接の際、自己PRができたと思っています。学校インターンシップという本学ならではのシステムは珍しいため、先生方も興味をもってくださり、ちょっと自慢でした（笑）。

伊勢　勉強量、時間をかける量もさることながら、本当に根気がいる仕事です。教職課程を取るにあたり、教員になりたい明確な理由をもては、どんなに勉強が辛くてもきっと乗り越えられるのです。それが教員になるための一番の近道であると思います。経営学部から外国語学部へ転部して、学生たちの英語力の高さを痛切に感じました。でも、地道な努力を続ければ、きっと夢は叶います。

内田　私は、2年生のうちから3年生に一緒に高木先生の講義を受けさせていただいたので、3年生の時には周囲よりも理解が進み、大きな助けとなりました。何事も早めの準備が必要だたので、使用率歴代ナンバー1だと思います（笑）。ここにいれば必ず教育関係の情報がスピーディに入ってきましたし、先生方と教育について話し合うことや知識が身につきますから、毎日昼食持参で通いました。大久保先生の授業が始まるギリギリまで、先生を拘束しました（笑）。高木先生、棚橋信雄先生にも大変お世話になりました。リアルタイムで先生方の考えや意見を吸収したことが今、現場でとても役立っています。

後輩へ伝えたい想い

伊勢　勉強量、時間をかける量もさることながら、本当に根気がいる仕事です。教職課程を取るにあたり、教員になりたい明確な理由をもては、どんなに勉強が辛くてもきっと乗り越えられるのです。それが教員になるための一番の近道であると思います。経営学部から外国語学部へ転部して、学生たちの英語力の高さを痛切に感じました。でも、地道な努力を続ければ、きっと夢は叶います。

内田　私は、2年生のうちから3年生に一緒に高木先生の講義を受けさせていただいたので、3年生の時には周囲よりも理解が進み、大きな助けとなりました。何事も早めの準備が必要だたので、使用率歴代ナンバー1だと思います（笑）。ここにいれば必ず教育関係の情報がスピーディに入ってきましたし、先生方と教育について話し合うことや知識が身につきますから、毎日昼食持参で通いました。大久保先生の授業が始まるギリギリまで、先生を拘束しました（笑）。高木先生、棚橋信雄先生にも大変お世話になりました。リアルタイムで先生方の考えや意見を吸収したことが今、現場でとても役立っています。

新しい先生方のご紹介

新年度から、園児・生徒・学生たちに熱い心で向き合う新しい先生方を紹介します。

外国語学部

甲斐田きよみ　助教

経営学部

藤田邦彦　准教授

人間学部

長竹教夫　准教授

大久保滋夫　教授

西尾美和子　助教

保健医療技術学部

川越仁恵　准教授

渡辺行野　助教

二宮彩子　准教授

貞廣彩子　助教

ふじみ野キャンパス教職課程センター

鈴木みどり　特任教授

高等学校・中学校

羽部真美香　英語教諭

山田ゆり香　体育教諭

文京幼稚園

飯塚久美　教諭

内野晴美　教諭

ふじみ野幼稚園

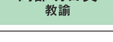
伊藤英里　教諭

吉田朝美　教諭

村奈彩華　英語教諭

牧島賢太　教諭

帯刀由起子　教諭


岡部明日美　教諭

関　智江　教諭

当日、座談会に出席できなかった4名の卒業生からは次のメッセージが届きました（一部抜粋）。

★首藤　樹里子「私は、今年4度目の採用試験で東京都の教員採用候補者となりました。時間がかかったのは、『教職教養・専門教養の知識が不十分だったこと』『試験に向けて計画的に勉強できなかったこと』が原因だと思います。講師経験が考慮され、今年は『特例選考エ』で受験することができました。そのため、二次試験の学科試験（教職教養、専門教養）が免除され、論文試験のみ。そこで私は、本番までに様々なテーマで論文を書き、現任校の校長先生など複数の先生方に添削していただきました。最終的には、どんなテーマであってもこの論文で勝負しよう！　と思えるものを1本だけ用意しました。当日は、テーマに合わせて書き出しの数行の文章を考えて、あとは文字を丁寧に書くことだけに集中できたので、心の余裕につながりました。

二次試験は、集団面接と個人面接でした。私が特に時間を割いたのは、試験当日に持参する面接票の作成です。面接官に知ってもらいたいことを簡潔に書くように心がけました。また、現任校だけでなく、区外の中学校へも足を運び、面接練習をしていただきました。他の人の面接練習を見て学んだことも多かったです。何度も練習していると、面接官は違っても聞かれることは同じだということが分かるようになり、本番は落ち着いて受け答えができたと思います」

★菅野　瑞翔「教職教養・専門教養・小論文の筆記試験においては、問題練習を行いました。しかしながら、英語の文法と長文対策として速読のテキストを3回解きました。また、面接では今年度に掛ける思いを全て伝えきることができました。それが功を奏し、『でいます」

★磯部　珠美『今年こそ絶対に受かる』という強い意志を持って臨んだ今年度の採用試験に合格しました。成功例として挙げるのは、筆記突破と面接試験です。強い意志があったからこそ、半年間毎日欠かすことなく勉強できました。たとえ少しの時間でも、毎日継続することが大事であると考えます。過去2回は筆記の点数が取れなかったことが敗因だったので、ひとり自分に合う勉強方法があると思いますが、『絶対教員になりたい！』という気持ちがさらに強くなった」

★西畑　遥「私は在学中に一度採用試験を受けていますが、その時は勉強不足で一次試験で落ちてしまいました。大学卒業後、学習指導講師として中学校に勤め始めました。また外部指導員として部活動にも携わらせていただいている中で、学校が本当に好きだと実感しました。その強い思いが勝因に繋がったのだと思います。来年度からは、改めて教員として『目の前の生徒』のために全力を尽くしていきたいと思います」

★磯部　珠美「今年こそ絶対に受かる」という強い意志を持って臨んだ今年度の採用試験に合格しました。成功例として挙げるのは、筆記突破と面接試験です。強い意志があったからこそ、半年間毎日欠かすことなく勉強できました。たとえ少しの時間でも、毎日継続することが大事であると考えます。過去2回は筆記の点数が取れなかったことが敗因だったので、ひとり自分に合う勉強方法があると思いますが、『絶対教員になりたい！』という気持ちがさらに強くなった」

★菅野　瑞翔「教職教養・専門教養・小論文の筆記試験においては、問題練習を行いました。しかしながら、英語の文法と長文対策として速読のテキストを3回解きました。また、面接では今年度に掛ける思いを全て伝えきることができました。それが功を奏し、『でいます」

★首藤　樹里子「私は、今年4度目の採用試験で東京都の教員採用候補者となりました。時間がかかったのは、『教職教養・専門教養の知識が不十分だったこと』『試験に向けて計画的に勉強できなかったこと』が原因だと思います。講師経験が考慮され、今年は『特例選考エ』で受験することができました。そのため、二次試験の学科試験（教職教養、専門教養）が免除され、論文試験のみ。そこで私は、本番までに様々なテーマで論文を書き、現任校の校長先生など複数の先生方に添削していただきました。最終的には、どんなテーマであってもこの論文で勝負しよう！　と思えるものを1本だけ用意しました。当日は、テーマに合わせて書き出しの数行の文章を考えて、あとは文字を丁寧に書くことだけに集中できたので、心の余裕につながりました。

二次試験は、集団面接と個人面接でした。私が特に時間を割いたのは、試験当日に持参する面接票の作成です。面接官に知ってもらいたいことを簡潔に書くように心がけました。また、現任校だけでなく、区外の中学校へも足を運び、面接練習をしていただきました。他の人の面接練習を見て学んだことも多かったです。何度も練習していると、面接官は違っても聞かれることは同じだということが分かるようになり、本番は落ち着いて受け答えができたと思います」

★磯部　珠美「今年こそ絶対に受かる」という強い意志を持って臨んだ今年度の採用試験に合格しました。成功例として挙げるのは、筆記突破と面接試験です。強い意志があったからこそ、半年間毎日欠かすことなく勉強できました。たとえ少しの時間でも、毎日継続することが大事であると考えます。過去2回は筆記の点数が取れなかったことが敗因だったので、ひとり自分に合う勉強方法があると思いますが、『絶対教員になりたい！』という気持ちがさらに強くなった」

★菅野　瑞翔「教職教養・専門教養・小論文の筆記試験においては、問題練習を行いました。しかしながら、英語の文法と長文対策として速読のテキストを3回解きました。また、面接では今年度に掛ける思いを全て伝えきることができました。それが功を奏し、『でいます」

高校 スーパーサイエンスハイスクール（SSH）
「サイエンスフェア」開催 タイの連携校が来校

都内女子校で唯一、文部科学省からSSHの指定を受けている本校では、海外の連携校との研究・交流を盛んに行っています。4月14日、タイのプリンセス・チュラポーン・サイエンスハイスクール・ペッチャブリー校（PCSHS・P）一行が来校。4月16日に本校で開かれた「サイエンスフェア2016」に参加し、ポスター発表に臨みました。

ジャシーホールで行われたオープニングセレモニーでは、清水直樹高等部校長と、PCSHS・Pのチューラット・ラワンバン校長の挨拶に続き、宮崎桜子さん（2梅）が英語で歓迎のスピーチを行いました。佐藤芳孝統括校長とチューラット校長によるプレゼント交換の後で、いよいよ第1部のサイエンスプロジェクトが各教室でスタート。各講義は、次の先生方が担当されました。

物理（お茶の水女子大学理学部・森川雅博教授）、化学（東邦大学理学部・幅田揚一教授、千葉工業大学工学部・池田茉莉助教）、生理学（女子栄養大学栄養学部・澁谷まさと教授、樋口要助手）、天文学（工学院大学先進工学部・小麥真也准教授）、化学（芝浦工業大学工学部・堀顕子准教授）。

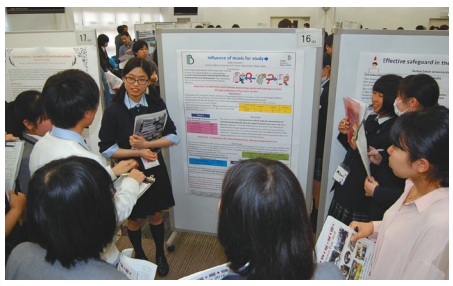
参加生徒は、PCSHS・P12名、本校理数（キャリア）クラス2・3年生107名。自分の興味ある講義に分かれて参加しました。

第2部はポスター発表。本校やPCSHS・P校に加えて、都立戸山高校、都立科学技術高校、都立多摩科学技術高校、筑波大学附属駒場高校、早稲田大学高等学院、山脇学園中学校から63名の生徒が、発表や見学で参加。26テーマのほとんどが英文ポスターで、英語での発表にチャレンジ。大勢の参加者がそれぞれの研究を語りあう熱気で、会場のBAL（文京アクティブラーニング）スタジオは大盛況。サイエンスフェアの閉会後は、カフェテリアでのウエルカムパーティーで、日本やタイの文化を紹介し合い、親睦を深めました。

この日、佐藤芳孝統括校長とチューラット校長は、今後4年間の教育連携継続に関する覚書に署名し、これからの両校の科学交流をさらに発展させていくことを誓い合いました。

チューラット校長（左）と固い握手を交わす佐藤統括校長

講義中に意見交換する生徒たち


発表中も質問・意見が飛び交う

大学 ロンドン芸大副総長が来校

本学との交流がスタートしたロンドン芸術大学（UAL）副総長のChris Wainwright教授（1面記事参照）ご一行が4月2日、本郷キャンパスを訪れ、島田燁子学園長、島田昌和理事長、工藤秀機学長はじめ本学関係者と歓談されました。

自己紹介に続き、工藤学長が交流の喜びと共に、本学が取り組むビジュアル・シンキングなどの教育について説明。島田理事長は、各学部や国際交流、日本の四季の風習などについて紹介しました。

歓談後は、本学と連携協定を結ぶ岩槻人形協同組合・新井久夫理事長が江戸木目込人形の解説と共に、木目込ストラップの作り方を伝授しました。同組合とのコラボでフクロウ型の眼鏡置きを開発した経営学部2年（取材時）の中野拓人さんと小暮和紀さんも手伝いに参加。UAL一行は、カラフルな布を木目に挟み込む作業に没頭し、愛らしい作品を完成させました。

Wainwright教授を囲んで

木目込ストラップ制作に没頭

大学 「AnimeJapan 2016」 本学学生が大活躍！

世界最大級のアニメイベント「AnimeJapan 2016」（主催＝一般社団法人アニメジャパン）が3月26・27日、東京ビッグサイトで開催され、過去最多の13万5323名が来場しました。本学のブースも例年にも増して見学者で溢れ、同学生実行委員会のスタッフたちは、プレゼンや来場者への対応などに大活躍しました。

今回のテーマは「学ワリ」～学生だけどワリとやる～。学生でありながら、ビジネス界で通用する能力をフルに発揮し、様々な活動をする姿をPRしました。

【学生制作CGアニメーション上映】昨年度本学で開催された「文京コンテンツアワード」「文京CGアニメショー」で、アニメ、ゲーム、映像業界の関係者と本学教員による選考を通過した14作品を上映。質の高いアニメーションは来場者の注目の的となりました。

【マーチャンダイジング企画プレゼン】

トルコ班

「見返りを求めない真心の大切さ」をテーマに、日本・トルコ合作映画「海難1890」応援ブログ記事配信などを通して、日本とトルコ共和国について学んだことを発表。

蔦屋班

奄美大島の大島紬と岩槻の江戸木目込人形の匠の技、学生のデザインが融合した高級フクロウ型眼鏡置きを開発。代官山 蔦屋書店にて開催した共同フェアについて発表。

ZEN班

外国人を対象としたジョブズが愛したZENツアー」をプロデュース。ツアー実施の様子や、制作を手がけた紙芝居・禅語帳などのコンテンツについて発表。

シグナル班

アニメーション制作会社SIGNAL・MDでの1年間のインターンシップの集大成を「カラフル忍者いろまき」と共に発表。

東日本大震災遺児支援プロジェクト「プレーメンズ」

被災地の今を伝え、1年間の活動報告と協賛企業との取り組みを紹介し、企業への協賛呼び掛け。

＊＊＊

一日2回のプレゼンのどの回も満席で、立ち見の方々も熱心に聴き入りました。同学生実行委員会の藤沢裕基さん（経営学部2年）は、次のように話しました。

「昨年4月末から動きだし、今年の3月に入ってからは毎日のように皆で作業したため、どんどん仲良くなってチームとしてまとまっていきました。その成果がこの2日間で出ていることがとてもうれしくて、委員長としてとても励みになりました。プレゼンを聴いてくださった初対面の企業の方から『一緒に取り組まないか』というオファーもいただきました。何と言っても、プレゼン中に皆さんが笑顔になってくださったこと、熱心にメモを取ってくださったことなど、皆さんが楽しんでくださったことをとてもうれしく思います。このイベントは外国人の来場者が大変多いため、外国語学部の学生たちが通訳として大活躍してくれました。経営学部では難しい部分をカバーしてもらい、本当に助かりました。期間中に予期せぬ出来事があっても、個々がしっかりと考えて、それぞれカバーしながら問題解決している姿を見て、素晴らしいチームになったことに感動しました。この2日間のために1年間、皆で一緒に頑張ってきたことを誇りに思います」

藤沢委員長

プレゼン終了後は、「プレーメンズ」による東日本大震災 遺児支援チャリティグッズ販売が行われ、多くの来場者が興味関心をもってブースを訪れました。

また、会場内では「ファミリーアニメフェスタ2016」も開かれ、経営学部の喜多見康教授が率いるASIAGRAPH（アジアグラフ）が参加し、2日間で140名の子どもたちにパソコンでの塗り絵やアニメーションを描く指導をしました。ASIAGRAPH CGアートギャラリー学生実行委員会の麻生小百合委員長（経営学部2年）と田畑潤也副委員長（同）は、次のように話しました。

麻生「17時までの予約が昼にはいっぱいで大盛況でした。初めてペンタブレットに触れる子が多く、苦戦しながらも楽しんで挑戦してくれました。塗り絵は、プロの漫画家が使っているソフトで教え、仕上がりをカードサイズにしてプレゼントして大変喜ばれました。2日間続けて来てくれた子どももいて、関心をもってもらえたことをうれしく思いました」

田畑「塗り絵もアニメーションも一人30分の予定でしたが、子どもたちはすぐにソフトの使い方を覚えて、何度も挑戦していました。自分たちが普段使っているソフトを、子どもたちが理解できるように教える方法を体得する苦労はありましたが、子どもたちがソフトに興味をもって、笑顔でパソコンに向かってくれたことがとてもうれしく、やりがいを感じました」

（記事中の学年は取材時）

【訂正とお詫び】
718号1面の「プレミアムエイジ」は「プレミアエイジ」に訂正し、お詫びします。